

【 会 議 録 （ 概 要 ） 】

実施日時： 平成 30 年 3 月 19 日(月) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 20 分

会議名	越谷市行政経営審議会 平成29年度第2回会議	実施場所	越谷市役所 本庁舎5階 第1委員会室
件名/議題	【平成 29 年度第 2 回会議】 1 開会 2 議事 越谷市行政評価の実施結果について ・平成 28 年度「事務事業評価（事後評価）実施」の結果 ・平成 29 年度「外部評価実施」の結果 3 閉会	会議資料： (■有 □無)	
出席者等	出席委員 安嶋委員、宇田委員、延寿寺委員、延与委員、大野委員、大谷委員、栗田委員、 小室委員、田中（茂）委員、手塚委員、戸張委員、横家委員 欠席委員 浅井委員、坂本委員、田中（由）委員 事務局 利根川行財政部長 大熊行政管理課長 行政管理課：中山主幹、相田主幹 傍聴人 なし		

●主な内容等

【平成 29 年度第 2 回会議】

● 越谷市行政評価の実施結果について

「平成 28 年度事務事業評価（事後評価）実施の結果」及び、「平成 29 年度「外部評価実施の結果」について事務局(行政管理課)が配付資料に基づき説明した。会議当日の委員からの主な意見は次のとおり。

(1) 「平成 28 年度事務事業評価（事後評価）実施の結果」について

- ・ 去年の行政評価において自身も実際に参加した「チャレンジ講座」という事業があったがその事業評価の指標が「越谷駅の乗降客数の推移」であった。事業内容の評価が駅の乗り降りの人数で決まることに驚いたのだが、評価の設定の妥当性はいつ、どこで検討されているのか。
- ・ 街路樹管理について、どの所管課でどのような手順で行っているのか。
- ・ 同じ目的をもつ事業において、結果的に統廃合に至った事業はあるのか。
- ・ 資料の作り方の件になるが、資料 1 の報告書において抽出された事業の詳細を把握するのに資料 2 で検索する構成となっている。検索するのに資料 1 に資料 2 の事業番号を加えて頂きたい。
- ・ 今回の報告書は 28 年度の内部評価と外部評価を受けた結果を受けたものと認識しているが、資料 1 における「A」「B」「C」「D」の 4 つの分類による総合評価は内部評価と外部評価の結果を踏まえて判断したものなのか教えて頂きたい。
- ・ 現在において新しくやらなければいけない事業が増えていく中で、取り組みには限界があると思われるが、事業を統廃合するのは難しいというように感じられた。越谷市として今後どのように取り組んでいくのかという点から、全体のボリュームを把握するため全事業数の推移はどのようになっているのか。
- ・ 1 ページ目の「総合評価」が「D」評価の事業について、どのような理由で「事業の休・廃止を含めた検討が必要」と判断したのか教えて頂きたい。

(次ページへ続く)

- ・ 事業評価は手間とコスト、人員がかかる、他自治体の手法を検証し、コストのかからないものを検討してみてもどうか。また、この報告書についても時間と手間がかかっていると思うが、もう少し読みやすいものにして頂きたい。
- ・ 報告書を簡素化することの手間、労力が生じると思うが、物量が多いことで読めない資料となっているので、グラフ化する、映像化するなどの手法を検討してみてもどうか。
- ・ 全ての事業の内容を記載している資料2を読むのはとても大変かと思われる。資料1で特に問題を指摘された事業の内容等をもう少し丁寧に説明を加えることで報告書としては十分であると考えている。

(2) 「平成29年度「外部評価実施の結果」について

- ・ 同じ事業（急患診療所診療業務等）で評価者から2度も同じC評価を受けたことで、市として納得しているとは感じられなかった。ただ、226万円という委託費用をかけた以上は評価に対しての成果を出すしかないと思われる。
- ・ 越谷市の職員としたら、それぞれの担当、職務の中で一生懸命やられていると思う。その中で評価者による受けた評価内容に従い、事業の廃止・統合を行えばよいが、これまで行ってきた事業についてそれぞれの所管課の考えが評価者と異なる点があると思う。
- ・ 外部評価がその費用に見合ったものであれば今後も継続して頂きたいが、中核市への移行による職員の事務負担が増えた中で、評価結果が原因で職員の勤務意欲を害されるなどで他の業務に支障をきたすようであれば、今後の外部評価は行わなくても良いのではないかと思う。
- ・ 行政において外部評価は行うべきと考える。民間企業においては、収益的な観点から自然と外部からの評価を受けることになるが、行政ではそれがないため、200万程度であればその効果は有効であると考えている。また、大切なのはその活用方法であるため、外部評価の結果をどのように反映し、生かしていくのかが課題になるのではないか。
- ・ 外部評価が隔年開催になったのであれば、430以上の事業の中で外部評価の対象事業が16事業というのは少ないと思われる。隔年開催になることで外部の評価を受けない事業が出てくるのではないか。予算や時間の制約はあると思うが、現行の予算規模であれば30程度の事業を外部評価の対象としても良いのではないか。
- ・ 資料3の外部評価の報告書において内部評価において「A」評価の事業が、外部評価の結果全て「BもしくはC」評価と判断されたことについて、事業課としてどのような判断をしているのか。内部評価の判断基準が低いのではないか

(3) その他

- ・ どのような方策で越谷市の歳入増加に繋げていくかという点も次回の審議に加えて頂きたい。

【次回会議】

次回会議の開催予定は次のとおり（後日文書で通知）。

- ・ 日時／平成30年8月

平成30年3月19日

越谷市行政経営審議会 平成29年度第2回会議

次 第

1 議事

越谷市行政評価の実施結果について

- ・平成28年度「事務事業評価（事後評価）実施」の結果
- ・平成29年度「外部評価実施」の結果

2 その他

【平成29年度第2回会議】

○行政管理課主幹 本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして大変ありがとうございます。ただいまから、平成29年度第2回越谷市行政経営審議会を始めさせていただきます。田中由佳委員は欠席の御連絡をいただいております。事務局職員の紹介につきましては大変恐縮ですが、お手元の席次表をもちまして替えさせて頂きたいと存じます。それでは大谷会長に進行お願いいたします。

○議長 本日の会議の閉会は、午後3時をめどに進めていきたいと思っておりますので、円滑な会議の進行に皆様のご協力のほどお願いいたします。会議の傍聴者の確認ですが傍聴希望者はいらっしゃいますか。

○行政管理課主幹 いらっしゃいません。

○議長 ありがとうございます。それでは早速、議題の「行政評価の実施結果」について、事務局から説明をお願いします。

○行政管理課長 本日の審議会は、本市の【行政評価】の結果のご報告させていただきました。委員の皆様からご意見をお伺いするものです。今年度からあらたな委員になられた方がおりますので、【行政評価】制度につきまして簡単にご説明させていただきます。

行政の事務事業については、かつては、一度決まったり、始まったりしてしまうと、その事業の見直しや取りやめが出来なかったり、又は事務終了後、効果の検証が出来ていなかったりという状況があり、住民の方から指摘や不満が寄せられていました。このような状況を踏まえ、行政自らがそれぞれの事業のコストや成果を点検・評価し、改革・改善に繋げていく取組が全国の自治体から始まりました。これが行政評価制度ですが、本市では平成15年度にその仕組みを本格導入してございます。

その仕組みといたしますが、事務事業を計画・実行したら結果を、4つの観点から点検しています。

1点目については「妥当性」として市がその事業を行う妥当性があるのか、2点目としては「効率性」ということで事業が効率的に行われているのか、3点目として「有効性」ということでの事業の成果が出ているのか、最後に「貢献度」ということで越谷市の上位の施策に貢献しているかとする4つの視点から点検評価をおこなっております。

また、この結果に基づき、いわゆる【PDCAサイクル】を毎年回すことにより更なる改革改善の取り組みを行っているものです。なお、越谷市ではこの行政評価の結果につきましては市長、副市長を始め、すべての部局長が委員となっている行政経営推進本部会議で報告し、全庁的に事業ごとの課題を共有しているほか、予算査定や定数の管理

においてもこの結果を参考としております。この結果については越谷市のホームページでも公表しており、越谷市の事務事業についての説明責任を果たすとともに、最終的には市民の方の市政参加を促し、市民主体のまちづくりを進めることも目的としております。

また、越谷市の行政評価制度では主に3つの取り組みを行っております。まず1点目は前年度の取組について事業の担当課がその事業の評価を行う「事後評価」、2点目といたしましては翌年度から新たに予算要求を行う事業や、あるいは拡充を行う事業につきまして事前に各所管課が点検評価を行う「事前評価」、3点目といたしましては外部の有識者が各事業の点検評価を行う、「外部評価」の取り組みを行っております。本日につきましては平成28年度に実施した事業の結果を評価いたしました「事後評価」並びに今年度実施した「外部評価」の結果につきまして報告させて頂くものでございます。

まず、「事後評価」の結果につきまして資料1では平成28年度事後評価の結果の概要をまとめており、資料2は、個別の事業の「内容」と「評価結果」を記しておりますが、本日は資料1に基づき説明させて頂きます。

1ページを開いていただきまして、平成28年度に実施いたしました全事務事業のうち、①～⑥に掲げています所定の抽出基準に基づき、434の事業の事後評価を行いました。

つづいて2の、総合評価は、事業課が「A」「B」「C」「D」をもって自ら判断するもので、この結果については1ページ目の中断にある「事業内容は適切である」と判断した「A」評価事業は100事業で全体の23.0%となり、「課題が少しあり事業の一部見直しが必要」と判断した「B」評価事業は331事業で全体の76.3%、さらに「事業の休・廃止を含めた検討が必要」と判断した「D」評価事業は3事業(0.7%)という結果でした。

なお、「課題が多く事業の大幅な見直しが必要」とした「C」評価事業はございませんでした。

総合評価を「D」とした3事業は1ページの下段の表に示しております、産業支援課所管の「勤労者等貸付事業」、建設住宅課所管の「住まいの情報館施設管理事業」と「住宅融資事業」ですが、「住まいの情報館施設管理事業」は、平成29年3月31日をもって事業廃止となり、「勤労者等貸付事業」と「住宅融資事業」については平成30年3月末をもって事業廃止予定となっております。

2ページ3の、改革改善の方向性は、434の全事業の今後における改革改善の方向性を示したものとなっております。所管課が「現状維持」と判断した事業は126事業で全体の29%、「検討・見直し」と判断した事業は303事業で全体の69.8%、「終了」と判断した事業は5事業で全体の1.2%という結果になりました。なお、終了と

した5事業についてはいずれも事業の完了、当初想定していた事業期間が満了することに伴い、終了と整理したものとなっております。

続きまして3ページ4の分析結果をご覧ください。

こちら各課による事後評価の結果を、

- 1) 受益の偏りと受益者負担の見直しの余地
- 2) 同じ目的をもつ事業の有無と廃止・縮小の余地
- 3) 妥当性と効率性
- 4) 妥当性と有効性
- 5) 妥当性の重視

の5つの視点から捉えた二つの判断軸の相関関係から課題を見つけ出す手法の「クロス分析」にかけたところ、分析項目別の累計14の事業に課題があるとの結果を得ました。

これら課題のあるとした累計14事業のうち、たとえば4ページ下の、同じ目的を持つ事業の有無と廃止・縮小の余地に課題があるとした「勤労者等貸付事業」は、6ページ下の、妥当性と有効性でも課題ありとされているなど、分析項目毎に課題があるとした事業を1つにまとめてカウントを1とした、課題のある事業の「実数」は、11事業になります。また、複数の課題があるとした事業には表中の事業名の頭に★印を付けております。

この結果につきましては市長、副市長を始め、すべての部局長が委員となっている行政経営推進本部会議で報告し、全庁的に事業ごとの課題を共有しております。これを踏まえ、所管課において事業の見直しが行われることとなります。こうした分析結果が、直ちに事業自体の判断に影響を与えるものでは有りませんが、今後の事業のあり方・進め方等のメルクマールや参考の一つとなって、安心安全なまちづくりの構築に繋がっていくものと考えます。事後評価の説明は以上です。

○議長 ただいま「事後評価」についての説明がありました。これほど多くの事業を対象としている自治体は多くなく、分析についても意欲的にやっていたらと思われる。この説明を受けまして御意見、御質問等がありますか。

○委員 昨年の行政評価において自身も実際に参加した「チャレンジ講座」という事業があったがその事業評価の指標が「越谷駅の乗降客数の推移」でした。事業内容の評価が駅の乗り降りの人数で決まることに驚いたのですが、評価の設定の妥当性はいつ、どこで検討されているのでしょうか。

○議長 個別の指標設定について回答は難しいと思いますが、事務局として一般的な指標設定のあり方について回答をお願いします。

○行政管理課長 事務事業の成果を図る指標としまして、その事業の目的がどの程度達成されたかを図るための数値を「成果指標」とし、目標達成のための手段として設定された活動がどの程度行われたかを数値化したもの、所管課がどれだけ努力したかを図るための「活動指標」を設定しております。

ご質問の事業の成果指標ですが、講座の目的が越谷市に人を呼び込むことを最終的に目標としたことで越谷駅の乗降客数を設定したと思われま

○委員 街路樹管理について、どの所管課でどのような手順で行っているのでしょうか。

○行政管理課長 街路樹管理については維持管理課が所管し、剪定作業については民間事業者

○委員 同じ目的を持つ事業において、結果的に統廃合に至った事業はあるのでしょうか。

○行政管理課長 勤労者貸付事業については既に終了しております。また、認知症総合支援事業につきましては地域包括ケア推進課が所管しており、認知症地域支援推進員の配置に併せて、医師や地域包括支援センター職員で構成される認知症初期集中支援チームを設置し、認知症の初期症状の方等への支援を行っておりますが、今後も高齢化に伴い認知症の方も増加することが見込まれていますので、ニーズを捉えた効果的な事業の実施について検討を行ってまいります。また、課をまたいだ事業についても、コスト面を含めてスケールメリットがあると判断したものについては継続的に検討してまいります。

○委員 いきいき館などの高齢者施設内での認知症に関する事業の統廃合を行うことで行政コストが削減することができるのではないかと思います。質問させていただきました。

○委員 資料の作り方の件になりますが、資料1の報告書で抽出された事業の詳細を把握するために資料2で検索する構成となっています。できれば資料1に資料2の事業番号を加えて頂けると検索しやすくなると思います。

○議長 次回同様の報告があった場合、資料1の表中に事業番号の追加を検討してください。

○委員 今回の報告書は28年度の内部評価と外部評価を受けた結果を受けたものと認識しています。資料1における総合評価を「A」「B」「C」「D」の4つの分類で評価をしているが、その評価は内部評価、外部評価どのような経緯を得て判断したものなのか教

えて頂きたい。

○行政管理課長 資料1及び2につきましては所管課による内部評価を取りまとめた報告書となっております。外部評価の結果は踏まえておりません。

○議長 私から資料1において2点ほど質問させてください。1点目ですが、「総合評価」において「適切である」と判断した事業数が100であるのに対して「改革改善の方向性」で現状維持とした事業数が126となっています。つまり、所管課で課題があると判断しているのにも係らず、現状維持と判断した事業がまぎれてしまっているのではないのでしょうか。2点目については、4ページ「同じ目的を持つ他の事業はあるか」「事業を廃止・縮小できる余地はあるか」と2つの視点で分析しています。

この中で「D」のブロックに分類される「同じ目的を持つ他の事業はあり」かつ、「事業を廃止・縮小できる余地がない」ことは具体的にどのようなことなのか、同じ目的であれば統合等を検討できると思われれます。以上2点についてご回答ください。

○行政管理課長 事後評価の結果、「総合評価」において「適切である」と判断している事業数を「改革改善の方向性」で現状維持とした事業数が上回っていることにつきまして、事務処理上、所管課が評価表を作成する際に、その事業内容が「適切である」以外と判断した場合には「改革改善の方向性」で「現状維持」を選択しないよう指示しております。ただ、その一方、見直すべき内容が越谷市以外の外部要因の関係で「速やかな」改善に向けた対応や措置が困難な場合、所管課において「現状維持」と整理していることもございます。

2点目でございますが、評価表で「休止・廃止による市民への影響が多い」を選択した一方、「上位施策を実現するために重複する事業は無い」または「他の事業と統合することによって成果を向上させる余地は無い」を選択しなかったものを「D」ブロックに分類しております。これは所管課において事業として市民への影響度を考えると廃止をすることができず、かつ、統合による効果が薄いと判断したしたことによるものと思われれます。

ただ、廃止ではなくとも統合という点からも改善の見直しはあると思われれます。また、評価表の「総合評価」の項目で「見直しの余地がある」と選ばなかったとしても、改善を行わないとするものではなく、所管課には今後も継続して検討を働きかけていきたいと考えております。

○委員 現在において新しくやらなければいけない事業が増えていく中で、取り組む限界があると思われれます。事業の統廃合するのは難しいというように感じられましたが、現在までに事業の数がどのように推移していて、越谷市として今後どのように取り組んで

いくのかという点からも、現在の全体のボリュームを把握するために事業数の推移について伺います。

○行政管理課長 平成28年度事業については603事業あり、26年度は事業564事業であったことから事業数として増加傾向にあります。事業数が増えているひとつの要因としまして、平成27年に越谷市が中核市に移行し、約2,000項目の事務権限が埼玉県から委譲されたことがあげられます。

○委員 事業以外の越谷市の人件費等について、県や国と比較してどのような位置づけなのか、この会で審議してもよいのでしょうか。

○行政管理課長 行政経営審議会では行政評価やその他市政に関する重要事項を審議することになっており、その範囲内であればご審議いただくことには問題ございません。

○議長 本日、最後にその他項目の時間を設けておりますので審議いただければと思います。

○委員 1ページ目の「総合評価」が「D」評価の事業について、どのような理由で「事業の休・廃止を含めた検討が必要」と判断したのか教えて頂きたい。

○行政管理課長 今回の報告書で対象となった14事業については取りまとめの上、改めて委員の方にご回答させていただきます。

○議長 ありがとうございます。「事後評価」について、ご意見等は以上でよろしいですか。それでは次に、「外部評価」について、事務局から説明をお願いします。

○行政管理課長 次に、資料3の【平成29年度外部評価の実施結果（概要版）】をご覧ください。これは、資料4の個別の事業の外部評価の実施結果報告書をまとめたもので、説明させていただきます資料は資料3になります。

外部評価と言いますのは、文字通り、外部の専門家に本市の事務事業を客観的に評価してもらう制度でして、越谷市においては平成17年度から平成27年度までは毎年実施し、28年度以降は1年おきに実施することにしております。

そして平成29年度の外部評価は、「一般社団法人 長野経済研究所」という民間のシンクタンクに評価を委託しまして10月に3日間に分けて行いました。

外部評価の手順ですが、事務局が決めました基準等に基づいて抽出した事業につきまして、その事業課と長野経済研究所の4名の評価者との1事業40分程度の公開によるヒアリングを通して事業評価を下すものです。

今年度は16事業を対象として実施し、その結果が、1ページ目の6の外部評価実施結果の(1)と(2)の表に全体集約してございます。

(2)の左の表をご覧ください。

内部評価でAとした7つの事業の全てが、外部評価ではBに評価を下げられました。

次に、内部評価でBとした9つの事業は、外部評価では、BとCに分けられまして、内部評価と同じBとされたのが5事業で、残りの4事業がCに評価を下げられました。

この結果、内部評価と外部評価が異なった事業は11で、その事業は、右の表に事業番号で示しております。

具体的な事業名は、長野経済研究所がまとめました資料4の16ページをご覧ください。16ページをお開き頂きますと、図表16に、その事業名が記されております。

そして、内部評価より外部評価が下がった11事業の外部評価のコメントが、隣の17ページから18ページにかけての表の中ほどに記してありますので後ほどご確認いただきたいと存じます。

恐れ入りますが、資料3に戻っていただき、裏面2ページの上の表をご覧ください。過去13年間の内部評価と外部評価の一致率・不一致率を表したもので、網掛けの部分が不一致率です。今年度の不一致率は過去最大の69%になりました。

この結果の捉え方ですが、必ずしも一致率が高ければ良いと言うものでもなければ、一致を目的とするものでもありませんので、外部評価者の指摘を参考に、事業課には更なる事務事業の精査をお願いし、改革・改善に繋げていただければよいものと考えております。

次に、(3)の補助金等の事業に係ります外部評価結果ですが、4つの補助金のうち、内部評価で「事業継続」とした3補助金のうちの【産業活性化推進事業関係の産業財産権取得費補助金】が外部評価では「統合・メニュー化」すべきと評価されましたが、この補助金は今年度から他の補助金と既に統合しておりまして、外部評価は更なる制度改良を求めて「統合・メニュー化」と評価したものです。

それから、内部評価で「要改善の事業」としております【創業者等育成支援事業関係の創業者オフィス家賃補助金】は外部評価では「廃止」と評価されましたが、今年度中に廃止することになっておりまして、両補助金とも、外部評価と同じベクトルにあります。事務局からの説明は以上です。

○議長 ただいま「外部評価」についての説明がありました。御意見、御質問等がありますか。

○委員 長野経済研究所4名による評価は満足いくものだったのでしょうか。

○行政管理課長 長野経済研究所については指名競争入札の結果、契約にいたったものでございます。また、同社は平成22年から1年を除き、6回にわたり越谷市の外部評価を行ってきたため、越谷市の行政評価全体に精通しており、今回においても円滑に事務の執行がなされたと判断しております。また、今年度226万円の委託料を支払っておりますが、内容についてはその金額に見合ったものであると判断しております。

○委員 ほぼ満足という形でよろしいでしょうか。

○行政管理課長 はい。そう判断しております。

○委員 今満足とおっしゃっていたが、同じ事業（急患診療所診療業務等）で評価者から2度も同じ「C」評価を受けたことで、市として納得しているとは感じられなかった。226万円という委託費用をかけた以上は評価に対しての成果を出すしかないと思われませんがいかがでしょうか。

○委員 越谷市の職員としたら、それぞれの担当、職務の中で一生懸命やられていると思う。その中で評価者による受けた評価内容に従い、事業の廃止・統合を行えばよいが、これまで行ってきた事業についてそれぞれの所管課の考えが評価者と異なる点があると思います。

○議長 皆様からご意見頂きましたが、この外部評価における再ヒアリングで評価内容に対して抗弁する機会は設けられていますか。

○行政管理課長 2日間のヒアリングの後、評価者から所管課に対して仮評価の結果を通知しております。その仮評価で所管課の説明が十分評価者に伝わっていない、もしくは評価者が事実誤認をしていると思われた際には再ヒアリングという形で説明の機会を設けております。今回も16事業中2事業で再ヒアリングを実施しました。

○議長 事業課としてはある程度、理屈的に納得できるところがあるのでしょうか。

○行政管理課長 再ヒアリングの結果を踏まえて、評価者には所管課の意見、考えを十分踏まえた上で評価いただくよう配慮しているところではありますが、評価者は「経済的かつ、合理性を確保する」観点からの指摘が多いかと思われます。ただ、行政としましては多少コストがかかったとしても、市民のために行わなければならない事業もあります。必ずしも評価者の言うとおりに対応がとれないことも実際にあり、評価者と所管課意

見がマッチングをしていないこともあります。

○委員 外部評価がその費用に見合ったものであれば今後も継続して頂きたいが、平成27年の中核市へ移行に伴い、職員の事務負担が増えた中で評価の結果により職員の勤務意欲を害されるなどで他の業務に支障をきたすようであれば、今後の外部評価は行わなくても良いのではないかと思います。

○議長 ありがとうございます。実行性の高いやり方を行うためのエールということで、事業課におきましては見直すべきところは見直していただければと思います。

○委員 行政において外部評価は行うべきと考えております。民間企業においては、収益的な観点から自然と外部からの評価を受けることになってはいますが、行政ではそれがないために、委託料が200万程度であればその効果は有効であると考えます。また、大切なのはその活用方法であると思います。例えば、「C」評価が続いた際には事業の廃止を行うなど、外部評価の結果をどのように反映し、生かしていくのかが課題になるのではないのでしょうか。

○議長 ありがとうございます。事務局で今回の外部評価の結果を踏まえ、どのような対応をとるのか現時点で方針が決まっているようでしたら教えて頂けますか。

○行政管理課長 外部評価の結果につきましては、市長を本部長として全ての部局長がメンバーとなる行政経営推進本部会議にて、外部評価者から指摘内容について直接説明を頂いております。また、所管課におきましては、毎年作成する事務事業評価表にて、外部評価者から受けた指摘内容について、どのような対応を取っているのか整理を行い、ホームページで公開しております。所管課においても指摘をそのままにするのではなく改善に向けた取組みを継続的に行っているものと考えております。

○議長 市民の方にとっては評価に対する市の対応がわかりづらい部分があると思われます。評価結果を公表するだけでなく、その後の対応をどうするかを示していくのも一つの方法なのではないのでしょうか。

○委員 事業評価は手間とコスト、人員がかかる、他自治体の手法を検証し、コストのかからないものを検討してみてもどうでしょうか。また、この報告書についても時間と手間がかかっていると思いますが、もう少し読みやすいものにして頂きたいと考えます。

○議長 ありがとうございます。ご意見ということですので、事業課におきましては今後

に向けた検討をお願いしたいと思います。

- 委員 報告書の量が非常に多いので、指摘のあった事業などポイントを絞った報告書にしてみてもよいのではないかと。
- 委員 報告書を簡素化することの手間、労力が生じると考えます。ただ物量が多いことで読めない資料であるので、グラフ化する、映像化するなどの手法を検討してみてもよいでしょうか。
- 委員 外部評価者として事業の見直しや廃止の検討など様々な意見がこの報告書には書かれています。こういった外部の意見を、職員はしっかり受止めて、整理すべきであると考えます。例えば「橋りょう耐震化整備事業」だけ見てもどのような事業内容でどんな評価なのかわかりづらいですが、「内部評価」と「外部評価」を比較することで理解が深まり、行政評価としては良い資料だと思います。ただ一度にこのような膨大な資料を提供されるとなかなか見直しづらいと思います。また、廃止や縮小となった事業についてどのような経緯で、こういった理由で廃止・縮小に至ったかわかるような資料であれば、見るほうとしても判断しやすいと思うのでそのあたりを今後検討していただきたいと思っています。
- 委員 全ての事業の内容が記載している資料2を読むのはとても大変かと思われまます。資料1で特に問題を指摘された事業の内容等をもう少し丁寧に説明を加えることで報告書としては十分であると思います。
- 議長 今回の報告書について「評価の対象を絞るということ」と「評価の対象は絞らなくても、審議会に提出する資料としてはコンパクトにする」という2点の意見があったと思われまます。今回は頂いたご意見の結論を出すということにはなっておりませんが、今後事務局において、この意見を認識いただき、以後の報告書作成において参考にして頂ければと思います。
- 委員 行政側の努力というのは非常に大変なものだと承知していますが、こうした外部の評価を入れるとことで行政が独りよがりにならないためにも大切なことだと思います。ただ、外部評価が隔年開催になったのであれば、430以上の事業の中で外部評価の対象事業が16事業というのは少ないと思われまます。隔年開催になることで外部の評価を受けない事業が出てくるのではないかと、予算や時間の制約はあると思いますが、現行の予算規模であれば30程度の事業を外部評価の対象としても良いのではないのでしょうか。

- 議長 審議会として外部評価の対象事業を増やしても良いのではないかという意見ですので、今後の予算要求時や事業選定時に検討して頂きたいと思います。
- 委員 事業課である行政管理課が外部評価者からの意見のように審議会からの意見として捉えていただければよいのではないのでしょうか。
- 委員 報告書中にボーダー（アンダーライン）をつけることで重要なポイントをつけて見やすくすることで、その内容を端的かつ、わかりやすくしてみてもどうか。外部評価者とのヒアリングの場で色々なやり取りがあったと思われませんが、行政職員の事業に対する前向きな意思をくじくような外部評価のあり方ではないと思います。
また、報告書の内容についてわかりづらいという意見が多くでてきましたが、「見難かった」ということからこのような意見が出てきたと思われま。
- 委員 資料3の外部評価の報告書において内部評価において「A」評価の事業が、外部評価の結果全て「B」もしくは「C」評価と判断されたことについて事業課としてはどのような判断しているのか。内部評価の判断基準が低いのではないかと等お考えを聞かせて頂きたい。
- 行政管理課長 内部評価で「A」評価事業が、外部評価にてそのまま「A」評価とされることはなかなかのが現状でございます。ただ、評価の内容を見ると、行政の内部では思いつかないような内容を専門家からの視点で指摘いただいていることもあり、結果として内部で得られなかった視点を得られたというメリットがございます。このことを今後のよりよい事務事業の改善に向けた業務の参考にできればと考えております。
- 議長 まだご意見等があるかと思われませんが、概ね目安の時間となりましたので本日の審議は、ここまでとさせていただきます。また、今回の件についてご意見があるようでしたら次回審議会にて、改めてご意見いただいてもよろしいかと思います。ほか、ご意見等ございますか。
- 委員 市の財政が豊かでない現状の中、所管課は歳入増加に向け各事業の活性化を図っているとは思いますが、「川のあるまち」といいながら具体的な事業がわからない、「まちづくり」と言いながら、まちづくりとしてなにをやっているか見えない。また、レイクタウンに年間5,000万人来ているということだが、何割の人が越谷市内に誘致しているのかなどもっと税金に関するをもっと知りたいと感じております。歳入増加により、所管課による更なる事業への取組につながると思います。特に観光事業における今後の方向性についてお考えを知りたいと思います。

- 行政管理課長 個別の事業の詳細についてこの場では回答できないのですが昨年8月に行政経営審議会においてご議論いただいた「まち・ひと・しごと」の越谷市の総合戦略において、越谷市の人口増加や地域の活性化に向け、こういった取組みを行っていくのかという計画に併せて、そのために掲げた事業がどの程度進んでいるのか進捗管理を行っております。これら事業を着実に推進することが具体的な目標の具現化に繋がっていくと考えております。
- 議長 具体的な事務事業についてお知りになりたい場合については、事前に事務局に伝えて頂ければ用意いただけると思います。
- 委員 越谷市、ひいては越谷市民が「もうかる」、「うるおうこと」が基本であると思います。そうしたなかで、どこの事業課でどのような事業を行っているかも大切だが、越谷市として特徴あるまちを作るという目的をもった方策が必要かと思えます。
- 委員 歳入増加を通じてどうやったら越谷市が豊かになるのか、次回はこういった内容を委員の方から提案等を聞けるような項目を作って頂きたい。
- 議長 様々なご提案をいただきましたので、次回以降の議題設定、時間の中で議論いただきたいと思えます。それでは時間の関係がございますので、事務局にお返ししたいと思います。事務局から何かございますか。
- 行政管理課長 次回の日程についてご案内いたします。ただいま、本市の「使用料」や「手数料」のあり方を定めました基本方針の改定作業を進めておりまして、その原案が整い次第、本審議会に「諮問」をさせていただきたいと存じております。
- 予定では、8月頃を目途としておりますが、改定作業の進捗状況次第では前後することもあります。いずれにしましても、目途がつき次第、早めにご連絡させていただきますので宜しくお願い申し上げます。事務局からは以上です。
- 議長 ありがとうございます。本日は、長時間にわたるご審議をいただき、ありがとうございました。以上を持ちまして本日の会議を終了いたします。お疲れ様でございました。
- 行政管理課長 本日は、長時間にわたるご審議をいただき、ありがとうございました。以上を持ちまして第二回の行政経営審議会を終了させていただきます。